

同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

03
2013
MARCH

山形県中小企業家同友会
月刊 同友
やまがた



「北海道同友会の
社員共育活動の原点に学ぶ」学習会

第43回中小企業問題全国研究集会
今こそ、社会の主役である中小企業が日本を変える！

山形県中小企業家同友会
2012年度スローガン

理念を
人を
数字を
なる
う！
経営者
に
いかす

「北海道同友会の社員共育活動の原点に学ぶ」学習会

今年、来年度は山形県中小企業家同友会中期ビジョンの中で「同友大学の検討」の年と位置づけられており、2月5日に社員共育委員会主催「北海道同友会の社員共育活動の原点に学ぶ」学習会を開催しました。

講師に北海道同友大学岡村学長(ダイヤ冷暖工業(株)代表取締役会長)をお迎えし、23名の参加者が学びました。

北海道同友大学の経緯



44年前、北海道の中小企業は「採用」に苦しんでいたそうです。そして採用してもすぐ辞める、教育ができないなど問題が山積していたそうです。

そこで同友会では共同求人が始まり、みんなで教育していこう、共に育とうという考えが生まれたそうです。

経営指針作りと人材育成

経営指針作りは難しいが、それを社員に浸透させることのほうが何倍も難しいとおっしゃいます。

社員に理念を理解してもらうには「基礎力」が必要。基礎力をアップすることが人材育成の肝。そして労使の信頼関係がないと本当の意味で理念の理解には繋がらないとおっしゃっていました。

この「社員の基礎力」「信頼関係構築」は経営者の責任であり決して根負けしてはならない事だと熱く語って頂きました。

経営指針作り、共同求人、社員共育をバラバラではなく一体として考えていらっしゃるどころが特徴的でした。

北海道同友大学の歴史

既に開講から32年経っており、2,330名の卒業生を輩出しています。今年は第61期となり、1月～8月まで30のカリキュラムをこなします。以前は年2回でしたが、現在は年1回で行っています。

基本は「講義+質問」「講義+グループ討論」です。

30カリキュラムにはレポートの提出が義務付けられており、採点対象になります。

また、卒業論文もありハードなイメージを受けました。

実績と成果

卒業生の感想文を拝見しましたが

・気がつけば仕事や会社で経験したことを学んだことと勘違いしていた。仕事に関わる以外は、考えることをしてこ

なかった。

・ものの見方、考えかたの幅が広がってきた。中小企業の場合、社員一人ひとりがその気になってやる気をださないと成長しないことを強く感じた。

・本屋に出向き、必死で本を読みレポートを書きました。その中で新しい自分、広がっていく自分が見え始め、豊かになっていく自分がうれしい。

・今までは、学ぶと覚えるものと思っていました。しかし、ここから、自分の考えをまとめることにより、ものの本質を捉える力がついてきたように感じます。本質を捉え自分の考えを常に持つと学んだことは財産です。

という内容で、カリキュラムはハードながらも成果の大きさを感じました。

また成果に繋がっている幾つかのポイントを教えて頂きました。

1、カリキュラムの充実

基本的な部分に「北海道論」や「人間と教育」などの北海道のオリジナリティを盛り込んでいる。

2、講師の充実

17名の大学教授講師陣は、経営者が持つ経験と勘を「不変化」して教えてくれる

3、グループ討論

同友会の真骨頂であるグループ討論を盛り込み、多面的な考え方を学ぶ

4、レポート提出

毎回、レポートの提出義務があり採点される。最後は経営者に戻される

まとめ

卒業生の共通点として、①生きるとはどういうことなのか②働くとはどういうことなのか③学ぶとはどういうことなのか。この3点に大きな気付きを得ている点です。

そして今の自分に何が足りなくてこれからどうすればいいのかを考えることが基礎力の土台となると伺いました。

しかし、同友大学を卒業すればそれで全てが身に付くものではなく、企業に戻った時には企業の教育力も必要となってくるとおっしゃっていました。

最後には、「小手先ではない人間力を育てる、社員に基礎力をつけるのが必要。経営指針の共有と浸透には、社員の基礎力と経営者と社員の信頼関係が必要で、遠回りのようですが、一番近いのが同友会大学です。できるところから1日も早く立ちあげてを願っています」とのお言葉を頂きました。

社員共育委員会でも前向きに取り組んで参ります。

(文責:社員共育委員長 阿部和人)

○北海道同友大学第61期カリキュラム○

日 程	講 義 テ ー マ	講 師
1月16日(水)	入学式	
〈 単 元 I 〉経済と中小企業		
1月18日(金)	激動する世界経済をどう見るか	北星学園大学経済学部 教授 佐々木 隆生氏
1月24日(木)	転換期の日本経済	北海学園大学経済学部 准教授 大貝 健二氏
1月31日(木)	北海道の経済構造とこれからの展望	北海学園大学経済学部 教授 高原 一隆氏
2月7日(木)	中小企業憲章と 中小企業振興基本条例	(社)北海道中小企業家同友会 代表理事 守 和彦氏
〈 単 元 II 〉北海道論		
2月15日(金)	〈フィールドワーク型→泊研修〉 13:00～集合 中小企業は地域に根ざして生きる	【見学先企業】 (1)(株)江別製粉(江別)
2月16日(土)	◎宿泊～なんぼろ温泉 12:00～解散 (南幌町南9西15)	(2)(株)町村農場(江別)
2月21日(木)	北海道資本主義発達史	北海学園大学経済学部 教授 小田 清氏
2月28日(木)	北海道農業の現状と課題	北海道大学大学院農学研究科 教授 飯澤 理一郎氏
3月7日(木)	北海道の風土と文学	北翔大学・同大短期大学部 講師 森 一生氏
〈 単 元 III 〉経営戦略と企業づくり		
3月14日(木)	中小企業の組織マネジメント	北海学園大学経営学部 教授 大平 義隆氏
3月21日(木)	中小企業のマーケティング戦略	札幌学院大学経営学部 教授 河西 邦人氏
3月28日(木)	地域に根ざした「ものづくり」	札幌市立大学デザイン学部 教授 杉 哲夫氏
4月4日(木)	経営分析のABC	山美幹生税理士事務所 税理士 山美 幹生氏
4月10日(水)	ローテック「ゼンマイ」で 新市場をひらく	東洋ゼンマイ(株) 代表取締役会長 長谷川 光一氏
〈 単 元 IV 〉現代と法		
4月18日(木)	日本国憲法の歴史的意義と課題	札幌学院大学 法学部 教授 伊藤 雅康氏
4月24日(水)	企業とは何か ～会社法を学ぶ～	田中燈一法律事務所 弁護士 田中 燈一氏
5月2日(木)	債権の管理と回収 ～グループワーク～	花形法律事務所 弁護士 花形 満氏
5月10日(金)	労働法の基礎知識	北海学園大学法学部 准教授 浅野 高宏氏

日 程	講 義 テ ー マ	講 師
5月16日(木)	知的財産権と中小企業	馬杉法律事務所 弁護士 馬杉 栄一氏
5月10日(金)	労働法の基礎知識	北海学園大学法学部 准教授 浅野 高宏氏
5月16日(木)	知的財産権と中小企業	馬杉法律事務所 弁護士 馬杉 栄一氏
〈 単 元 V 〉科学と人間		
5月23日(木)	人類の起源と進化	北海道大学アイヌ・先住民研究センター 教授 加藤 博文氏
5月30日(木)	地球環境とエネルギー問題	酪農学園大学環境システム学部 教授 押谷 一氏
6月6日(木)	人間のこころと身体	北星学園大学社会福祉学部 教授 上野 武治氏
6月13日(木)	情報化社会と人間	北海道大学大学院情報科学研究科 教授 山本 強氏
〈 単 元 VI 〉人間と教育		
6月20日(木)	教育の本質とは何か	北海道大学 名誉教授 竹田 正直氏
6月26日(水)	幹部社員の任務と役割	サンマルコ食品(株) 代表取締役 藤井 幸一氏
7月4日(木)	夢と誇りとやりがいと ～社風づくりが社員を変える～	(株)山本忠信商店 代表取締役 山本 英明氏
7月11日(木)	支えあう職場の関係づくり	北海道大学大学院教育学研究院 教授 間宮 正幸氏
7月18日(木)	社員と共に育ち合う 企業づくり	(株)アイワード 代表取締役 木野口 功氏
総 括 講 義		
7月25日(木)	中小企業の未来と私たちの課題	(社)北海道中小企業家同友会 専務理事 細川 修氏
8月23日(金)	卒業式	



今こそ、社会の主役である中小企業が日本を変える！

創立50周年を迎えた福岡同友会で、2/14～15日、「第43回中小企業問題全国研究集会」が開催され全国から1300名が集いました。1日目分科会、2日目全体会・記念講演と時代に立ち向かう勢いのある経営者たちが環境変化に対応できる強い企業づくりを学びあいました。

北海道産食材を生かしたオンリーワン戦略



分科会は14あり、私が参加した分科会は第10分科会。「なぜ、既存業種で成長しつづけるのか？」の業種別の分科会で、北海道同友会のサンマルコ食品(株) 代表取締役社長 藤井幸一氏が報告。サンマルコ食品は、北海道産の男爵イモを使ったコロックを主力とするメーカーで、年商85億円の企業。「コロック」で100億円を目標にしているその根底に何があるのか興味深くお聞きしました。

2007年の食肉偽装事件に巻き込まれ、「偽装とは知らずに仕入れた」と自ら記者会見を開きます。一時売上3割減に落ち込みますが、社員と一体となり誠意ある対応で信頼を取り戻していきます。

「社長が揺れたら社員も揺れる。社員が幸せにならないと本物ではない」と経営者の覚悟と社員への想いが伝わってきます。すべての情報を公開し、目標、希望も数字で見える化し、新しい商品、分野へのストーリーを創っていること、最大の特長は自社のポジションを、「良い原料の近くにいる」「工場で働いている人は北海道の人」と決めていることです。品質、無欠点性、満足拡大特性で差別化している戦略が光っていました。

理念経営～人を生かす経営～

2日目の記念講演は、日本で初めて明太子を製造・販売した(株)ふくや 代表取締役社長 川原正孝氏が講演。創業者の両親が「商人は消費者代表」と消費者視点が商売の原点だといいます。経営理念がなくても売り上げは上がるが、理念がないといつの間にか潰れてしまう。理念があることで強くなると理念経営と社員教育についてお話されました。

接客は感性が大切で、同じ商品でも社員の接客で味の評価が変わってしまうといいます。社員さんには、1日のうち自分の勉強のために時間を使うことやPTA、ボランティア、他団体などの地域活動を奨励。いろんな人と付き合い、社員さん自身の人格で勝負しろといいます。

経営理念「強い会社・良い会社」を社員さんに理解してもらうことが重要と社員教育は徹底しています。その定義は明確で、「良い会社」は①夢がある②地域貢献、災害等の非常時は「ふくやの工場に行け」となっていることが驚きです。③あたり前のことがきちんとできる良い社員、④社員を大事にする。(終身雇用制)を挙げています。

2社に共通する点は、理念経営の実践と人を生かす経営の徹底です。中小企業は地域経済の担い手であり、中小企業で働く社員の役割が大きいのです。2社の社員数は500名を超える企業ですが、はじめは数名からのスタートでした。変化に対応し、常に進化しながら、社員、地域、お客様との信頼の積み上げが現在にいたっている点でした。

今回は山形から元代表理事の西塔さんと2名の参加で、本当に勿体ない思いがしました。大勢で参加すれば、全国の同友会の勢い、先進的な実践事例に触れることで、多くの学びが共有でき、山形に持ち帰れます。全国行事には、積極的に参加しましょう。(文責:伊藤由紀子)



東北財務局山形事務所との 中小企業金融円滑化法に関する意見交換会

山形同友会は、1月28日に今年3月31日に終了する「金融円滑化法終了後の対応」について、意見交換会を実施。東北財務局山形財務事務所から2名、県商工労働観光部産業政策課から2名、山形同友会から9名が出席しました。



金融円滑化法終了後の対応について

はじめに、東北財務局山形財務事務所 菅原所長より、中小企業金融円滑化法の終了までを説明。

昨年4月に策定された「中小企業経営支援のための政策パッケージ」として、①金融機関によるコンサルティング機能の発揮、②企業再生支援機構・中小企業再生支援協議会の機能強化、③事業再生ファンドの組成など経営改善や事業再生を支援する政策の推進を紹介しました。

円滑化法施行後、貸付条件の再変更が増加しているが「経営改善計画書」の策定されていない中小企業が多いと指摘しています。

「経営改善計画書」の提出があれば不良債権にならない点は従来どおり。「貸出条件緩和債権」の要件の恒久措置として、計画書の作成時期を貸出条件の変更時より最長1年以内の策定でもよく、経営再建の達成時期も5年以内(最長10年以内)に緩和されている点も従来どおりです。

【具体的な対応】

金融機関の姿勢は、今までと変わらず、貸付条件変更や円滑な資金供給に努める。金融検査・監督の目線・スタンスも変わらず、不良債権の定義も変わりません。

特に、借り手の立場にたって最適な解決策を提案し、実行支援を行います。そのひとつに経営課題に応じて専門家派遣をする支援ネットワーク事業(国の専門家派遣事業、3回まで無料)の紹介がありました。

財務局に「中小企業等金融円滑化相談窓口」が設置され、財務局や金融機関の対応をお知らせするとともに、個別の苦情・相談も受付ます。

●相談窓口 電話023(625)6295

東北財務局山形財務事務所

県の支援対策について

県商工労働観光部産業政策課 豊嶋主幹より、山形県の具体的な支援対策について下記3点を紹介しました。

- ①商工業振興資金に「金融円滑化対応貸付」の創設。金融円滑化対応貸付の創設
- ②県の「専門家派遣事業」では、企業が負担する費用軽減する。特に「経営改善計画書」を作成、実行に取り組んでいる企業にはさらに軽減措置をします。
- ③商工団体・金融機関と連携した特別相談の強化。

終了後の不安を訴える

齋藤委員長より、企業実態の報告と昨年12月に実施したアンケートから見えてくる特長を報告。金融円滑化法を知らない間に利用している点、終了後に景気低迷による受注減少、連鎖倒産、資金繰り困難などの影響に不安の声を紹介しました。

意見交換では、

- ・専門家派遣の支援ネットワーク事業(経産省)の回数が3回というのは少ない。
- ・条件変更した場合、新規融資が難しい。条件変更しても債務者区分が変わらないといっても企業にとっては厳しい。
- ・金融機関にコンサルタントをお願いしたくても、零細企業では提出する書類等で苦労している方も多い。
- ・行政で言っていることと金融機関でやっていることが一緒であることに期待している。

行政の方には、その場で具体的な回答をいただき、今後も意見交換会を開催していくことを確認しました。

経営指針事前セミナーで 経営理念・財務・労使見解を学び合う

経営指針委員会では、経営指針作成セミナーの質を高めるために、「経営理念」「財務」「労使見解」を学ぶ三つのテーマ別の事前セミナーを開催しました。

事業領域を考え合う

経営指針セミナー「理念ミニコース」は、10月と11月の2回にわたって開かれ、経営理念について学び、科学性の理念に大きく関わる事業領域を決めることを目的に行われました。

第1回目は、中村経営指針委員長が、理念・方針・計画からなる同友会の経営指針について説明し、経営理念の大切な要素である科学性・社会性・人間性について講義しました。

続いて、(株)菊池技建 代表取締役 菊池幸生氏が、経営指針書を作成してからの3年間の成果と課題について報告。最初は自分だけで経営指針書を作成したが、社員から担当部門の計画を出してもらおう等、作成段階から社員を巻き込み、コミュニケーションを図りながら実践し進捗状況をしっかりチェックしてきた。そして、描いた方向に会社が変わってきたと語りました。

第2回目は、作成してきたSWOT分析と10年ビジョンのシートを検討し、事業領域を考え合いました。

経営者の視点で財務を学ぶ



12月に開かれた「財務セミナー」は、決算書、財務諸表を理解することをねらいとして開かれました。

(株)ニシカワ 代表取締役 西川俊行氏が、「経営から見た財務諸表の見方」をテーマに、自らがいろいろな先生と出会いながら一つひとつ学んで実践してきた体験を交え、経営者の視点

から財務三表(貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書)について解説。

西川氏は、例を挙げながら経営改善するためのポイントとして、売上アップ・販売費及び一般管理費のダウン・売掛・棚卸のダウン、原価償却費を抑えることなどを分かりやすく説明し、「絶対に利益を出すという強い意志が必要です。減収になっても利益を出すにはどうするか。シュミレーションしておくことが大切」と語りました。

労使見解を自社にどうかすか



1月の「労使見解コース」は、社員共育委員会の協力をいただき開催されました。

はじめに、「人を生かす経営(中小企業における労使関係の見解)をどのように経営者の心に刻み、実践していくか」をテーマとして、松田代表理事にお話していただきました。松田氏は、「人を生かす経営のいかすは生かすで活かすではない。労使見解は経営者のための虎の巻ではなく、全ての土台になるもの。大切なのは社長と社員、社員と社員の信頼関係で、労使見解はモノサシ、大事なのは実践で繰り返しやり続けること」と語りました。

次に、「労使見解における社員との信頼関係構築、パートナーシップについて」をテーマに(株)グローバル物流 代表取締役 奥山正樹氏が、社員との信頼関係を構築し、社員の経営参加によって会社を伸ばしてきた経営体験を報告。

報告の後には、グループ討論が行われ、労使見解を学び、実践と照らし合わせて自社にどうかすかを考える機会となりました。

第11回理事会報告

◆日時:2013年2月12日(火)15:00~17:20 ◆会場:同友会事務局 ◆議長:越前屋理事
◆出席:青柳、浅野、阿部(和)、阿部(秀)、伊藤(尚)、越前屋、川合、齋藤、佐藤、菅原、松田、安藤、後藤、若木、及川、佐藤(松)、島貫、事務局:伊藤、矢作(12名)

越前屋理事が議長をつとめ、松田代表の「新年度方針を決めるに
あたり慎重な議論をお願いいたします」の挨拶で始まりました。

■報告事項

1) 中同協関連

- ①第21回中小企業憲章・条例推進本部会議報告(齋藤理事)
- ②中同協経営労働委員会報告(2/7~8)(菅原理事)
 - ・基調講演で、講師 呉学殊氏が同友会の考え方、「労使見解」を高く評価。
 - ・少子化の歯止めのためにもワークライフバランス、労使見解を生かし経営をしよう。
 - ・21世紀型企業づくりをめざし、「企業変革支援プログラム」の普及と活用が重要。

2) 各支部報告

- ・山形支部:社員例会を4回開催し参加者も多く、来年度も開催を検討していく。
- ・さくらんぼ支部、置賜支部より、2月、3月例会へゲスト参加者を募り、増強につなげる。

3) 各委員会報告

- ①経営指針委員会「第18期経営指針をつくる会」(菅原理事)
今期7名が受講。2月23日第1講が開講。
- ②社員共有委員会「北海道同友会の社員共有に学ぶ」学習会(2/5)(阿部理事)
北海道同友会の同友会大学の岡村学長を講師としてお迎えし、社員教育の原点(共有理念、経営指針の実践の課題として社員の基礎力と信頼関係の課題があり、同友会大学を開設した経緯とその成果をお話していただきました。山形同友会として前向きに検討していく。

4) 2013年1月次決算と会費未収状況を報告(伊藤事務局長)

5) 新事務局員採用の件 今後の採用について、常任理事会で再検討することになりました。

■承認事項(入・退会承認) 3名入会3名退会 2/12現在408名

■討議事項

議題1:第29回定時総会について

浅野実行委員長より、開催要項等の提案があり、開催目的が決定。なお、総会議事等のタイムスケジュール、宣伝活動は2月18日の実行委員会で決定する予定。予算(第1次案)が提案され承認されました。

議題2:2013年活動方針(案)の件

松田代表理事より2013年度スローガンが提案され、「中小企業振興条例元年 魅力を集い、共に歩もう」に決定。また、重点課題3点と基本方針(案)を決定。

議題3:新年度役員体制(案)について

1) 安藤代表理事より、前回理事会で決定した「組織委員長」について、支部人事の件もあり、予定者の委員長取り消しについて報告がありました。また、副代表理事が組織活動を担当する提案があり承認されました。

2) 2013年度役員体制と副代表理事の役割、中同協幹事の提案があり承認されました。

*副代表理事の役割

- (1)組織(広報)分野を担当します。中村氏は会内、青柳氏は会外向けの活動を担当。
- (2)全県3大行事の実行委員会に入り、支援をしていく。
- (3)中期ビジョンの課題(一般社団法人化の検討、組織再編)を担当。

3) 理事の運動分野の担当を決定しました。

議題4:2013年度事業計画(案)について

松田代表理事より、役員研修会の開催(5月下旬予定)と新会員オリエンテーション(常任理事会担当)について提案があり承認されました。

議題5:2013年予算(原案)について

伊藤事務局長より、予算(原案)と期首会勢について提案があり、検討課題となりました。支部・委員会・部会は事業活動計画(案)と予算(案)を3/7までに提出の件と全国行事参加費補助について、常任理事会で再検討することになりました。

議題6:会員増強の取り組みについて

松田代表理事より現状報告、各支部の取り組みが報告され、①これまで、増強に向けて活動をしてきていることから、2月・3月例会のワングストに組み込み、増強につなげていくことを確認。②最上地域の経営者の方に同友会を強く勧めていくことを確認。理事会として、430名達成し、定時総会を迎えることを決定しました。

議題7:中同協と個人情報取り扱いに関わる業務委託契約書締結については検討課題。

■その他

- 1) 第1回東日本大震災復興シンポジウム(3/6)の参加動員
- 2) 山形県信用金庫協会より、講演のご案内(3/4) *信用金庫さんのご招待で無料)

3) 次回理事会日程

●日時:3月14日(木)午後3時 ~午後5時30分

●会場:同友会事務局

●議題:①2013年新春交流会のまとめ

②2013年度方針案作成、予算(案)、役員人事

③第29回定時総会の件

④組織課題進捗状況 ほか

■閉会挨拶 ■川合代表理事

新会員紹介

◎今野 秀紀氏

(株)今野紙工 代表取締役専務
業種 シール・ラベル印刷、製本加工業
山形支部

◎阿部 敦氏

(有)若葉建築 専務取締役
業種 木造住宅の設計・施工、不動産業
寒河江支部

◎高橋 進一氏

(株)さくら野コーポレーション 代表取締役
業種 不動産業
さくらんぼ支部

支部・会員名・ 企業名・役職変更

- 大場印刷(株)(山形支部) 取締役業務統括兼営業 土屋和浩氏 ⇒ 常務取締役 大場賢二氏へ変更
- 魚亭 岡ざき(庄内支部) 代表 岡崎 淳氏 ⇒ (株)岡ざき 代表取締役 岡崎雅也氏へ変更

From Editor

★2月に開催された福岡全研。山形から2名の参加ですが、往復の飛行機が違ったために単独行動になりました。2日間の学びの内容については本文の記事をご覧くださいとして、1泊2日の同友会ならではのエピソードをご紹介します。★早朝の仙台空港で、宮城同友会の役員の方といっしょになり、空港周辺の遅々として進まない実態を聞きました。福岡に到着し、バスを待っている方に「福島の方ですね」と声をかけ、会場までの路線バスで同席し、約40分間お話をしました。分科会の報告者であることに気づき、この2年間、心身ともに緊張の毎日を過ごし、社員がいるから仕事を続けていることを教えてもらいました。当事者は福島だけではない。原発問題は日本全体が当事者であるとの言葉にはっとしました。

た。★会場に着き、ずうずうしく千葉の会員さんたちと昼食をご一緒させていただくことに。若い経営者の方とベテランの会員さんたちとの2月例会の打ち合わせのやり取りがあり、例会までにプレ報告を2回やっていることを教えてもらいました。分科会では、愛媛の役員さんと知り合い、新商品を送っていただきました。★オプションツアーのバスでは、北海道の代表理事と同席となり、北海道にもある炭鉱の歴史や現状、増強、条例と多方面の運動課題や「離人形が大好きでね」と意外な一面を教えていただきました。いくつかの偶然が重なったが、自分から声をかけなければ、こんな素敵な出会い、気づきが得られませんでした。これが、セレンディピティ、実に楽しく、幸せな2日間でした。(由)

3月支部例会案内

・どの支部の例会にも参加できます。
・月に一度は参加しましょう。



山形支部

底力を養おう!

みんなが「その気」になった瞬間に会社は大きく変わる

2013.3.15 (金) PM6:30~

場所: 山形テルサ リハーサル室

山形市双葉町1-2-3 ☎023-646-6677

報告者: (株)アサヒ印刷 代表取締役 岩見信弘氏

2001年3月、小火で全ての責任は社長にあることを痛感。それならば自分が思い描く会社にしてようという経営者としての覚悟を決めます。あたり前のことがあたり前にできる会社をめざし、率先垂範で人が育つ環境づくりに力を入れてきました。挨拶・掃除・朝礼・共に学ぶ学習会など、「ものさし」を合わせながら取り組み、会社は進化してきました。そして今、会社で起こる全ての情報を共有するデッドライン会議でスピード経営とボトムアップを図っています。

「経営に答えはない。自分で試してやり続けるしかない。人を育てるには時間がかかる。あきらめずに取り組むかどうか。みんながその気になった瞬間、会社は大きく変わる」と語る岩見社長の報告から人材育成について学び合います。



庄内支部

持続可能な会社をめざして

2013.3.19 (火) PM6:30~

場所: 鶴岡市総合保健福祉センター「にこ♡ふる」

鶴岡市泉町5-30 ☎0235-25-2731

報告者: (株)板垣水道 代表取締役 板垣一紀氏

水道工事の激減にともない、リフォームに進出。そして、再生エネルギーと出会います。まずは、正確な情報を掴もうと知ることから始めます。山形の住宅でエネルギーを一番使用しているのが、お湯、次に暖房。また再生エネルギーで地域が自立できる可能性があることに確信を持ちます。

水道屋は地元で食べていくしかない。縮小する地域経済と建設業界の中で、ここにある地産の再生可能エネルギー(コサRエネルギー)を活用して持続可能な会社をめざして動く板垣社長の報告です。

市場縮小の時代に新たな仕事づくりを考え合う例会です。お誘い合わせの上、ご参加ください。



置賜支部

社員の心のあり方が 会社の運命を決める Part2

2013.3.21 (木) PM6:30~

場所: 伝国の社

米沢市丸の内1-2-1 ☎0238-26-8000

報告者: (株)八代鋳金 代表取締役 八代昌弘氏

社員との関わりに悩み、経営者の役割とは何かと自問自答。朝礼や会議で社員とコミュニケーションを図りながらお客様に喜ばれる品質の高い製品づくりが使命と取り組んできました。

しかし、リーマンショック後、仕事が急になくなり、新しい仕事を探すものの何もない。危機管理をしていなかった自分に気づきます。今の社員と加工機械では、先が見えないと、平成22年に新たな機械の導入に踏み切ります。

そして、新たな社員を採用し、若返りをはかります。それと同時に勉強会をひらき、社員のモチベーションアップに努め、社内が変わってきました。「社員の心のあり方が会社の運命を決める」と語る八代社長の報告に学び合います。



寒河江支部

東日本大震災で売上がゼロに! どん底での覚悟、そして復活へ

2013.3.21 (木) PM7:00~

場所: 寒河江市技術交流プラザ

寒河江市中央工業団地153-1 ☎0237-86-1991

報告者: (有)山形E旅 代表取締役 金田史生氏

兄弟で創業し当初は弟が社長をしていたが、トップが二人いる状態で、言い争いが絶えず社内は険悪ムード。社員は定着せず、業績も上がらずと課題山積みの中、2007年に同友会に入会しました。中同協の全国総会に参加し、経営指針を作るしかないという決意を固め、2010年に経営指針セミナーを受講し、本気で会社の変革に取り組みます。

新卒採用も決め、「これからやるぞ!」と決意した矢先に起きた東日本大震災。震災直後、たった1日で予約の仕事が全てなくなり、半年間の売り上げがゼロに。廃業か継続かの岐路に立ち、継続を決断します。その時、浮かんだのはお客さんと社員の顔。そして、「思いが入った経営指針書があったから」と強調します。他社との差別化、薄利多売からの脱却の戦略で1年後には黒字へと逆転しました。進むべき道を決めたら実践あるのみと邁進する金田社長の実践報告に学びます。



さくらんぼ支部

経営指針に基づいた未来型経営

2013.3.26 (火) PM6:30~

場所: さくらんぼタントクルセンター

東根市中央1-5-1 ☎0237-43-1155

報告者: (株)菊池技建 代表取締役 菊池幸生氏

2009年に経営指針書を作成し、社長に就任。方向性、やるべきことが明確になり、率先垂範で走り続けてきました。しかし、自分の仕事量の限界を知り、社員と一緒にやる組織づくりに着手します。

経営指針書に基づいて社員と理念を共有し、各部門の単年度計画書を作成。昨年度は目標達成につながり、前年比で売上140%、経常利益170%アップしました。

4部門間の取引をとおり、工程管理、生産利益管理の取り組みを強化し、全社員の多能工化をめざし、今年、新たな市場開拓に挑戦します。

「経営指針は実践あるのみ、迷いはない!」と語る菊池社長の報告から、業績アップの戦略に学びます。

同友やまがた3月号(2013年3月1日発行/通巻240号)



“知り合い、学び合い、援け合い”
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583
URL:<http://yamagata.doyu.jp/> E-mail:info@yamagata-doyu.jp